

# 平成26年度 春季大会 兼 インターハイ・近畿大会代表決定戦 報告

## 男子団体で準優勝！近畿大会出場決定

### 個人戦も小野原(男子)、山田(女子)が近畿大会に出場！

6月14日(土)・15日(日)に、春季大会2日目・3日目が行われました。この大会は、5月の1日目の1次予選を勝ち抜いた個人、団体が出場でき、インターハイ・近畿大会の代表決定戦を兼ねています。インターハイは、団体は1位のみ、個人は2位まで、近畿大会は団体が4位まで(今年度は大阪開催のため1枠増)、個人は10位までが出場権を獲得できます。

本校からは、個人で男子4名、女子2名と男子団体が出場しました。

#### ◆6月14日(土) 個人戦 “本気”でインターハイ狙っていました・・・

個人戦は、最初の3立12射を終えて6中以上で決勝に進出。残り4、5立を行い、合計20射の的中で順位を決定します。

男子個人は、3年廣橋、樋田、小野原、2年前田の4名が出場しました。最初の3立、廣橋8中、樋田5中、小野原9中、前田5中で、決勝に残ったのが廣橋と小野原の2名だけでした。明日の団体戦のことを考えると、かなり不安になってきました。

決勝の2立で、廣橋、小野原共に8射6中となんとか踏ん張りました。合計で廣橋が14中、小野原が15中となり、他の選手の結果待ちとなりました。今回の男子は、予選3立の的中がここ数年なかったくらい高く、15中でも10位は厳しいかなと感じていましたが、終わってみれば15中に7名の選手が並ぶ大混戦となり、小野原が4位～10位の順位決定競射に残りました。競射の1本目、2本目を的中、3本目を外してしまいましたが、見事6位入賞となり、近畿大会への出場権を獲得しました。廣橋は後1本足りず悔しい思いをしましたが、12位となり近畿大会男子個人の補欠に選ばれました。



女子個人は、3年山田、鷺島の2名が出場しました。女子は団体戦には出場出来ませんでしたので、この個人戦にすべてをぶつけました。特に山田は、はっきりと「インターハイ出場」を目標にして試合に挑みました。鷺島は12射5中で惜しくも決勝に進むことが出来ませんでした。山田は、「優勝」というプレッシャーのなか、1立目4中という最高の滑り出しとなりましたが、2立目2中、3立目2中と悔しい取りこぼしで、合計12射8中で決勝に進みました。普通なら上出来の結果ですが、優勝を狙うには厳しい結果になりました。しかし、決勝の2立で8射6中と踏ん張り、合計20射14中で3位～7位の競射に残りました。競射1本目、山田は見事的中。この時点で他の3選手が外し、2本目からは

好文学園の選手と一騎打ちとなりました。二人は2本目、3本目、4本目と的中。とても順位決定の競射とは思えない緊張感のなか、競射が続きます。5本目からは八寸的(的が小さくなります。)になります。山田は今まで八寸的で練習したことがなく少し不安になったようです。的枠ぎりぎりを外してしまいました。好文学園の選手が的中し、勝負あり。それでも山田は4位に入賞し、見事近畿大会への出場権を獲得しました。



## ◆6月15日(日) 団体戦 土壇場からの逆襲も一步届かず・・・

いよいよ団体戦です。本校弓道部の悲願である、【団体】での近畿大会・インターハイ出場に向けての戦いが始まります。

### ■予選

団体戦は予選2立、合計40射的の中で、上位5校での決勝リーグ戦で順位を決定します。

4月当初の立ち順抽選で、今年はほとんどの大会で1番立ちとなりました。毎回1立目が緊張のせいか、的中が伸びず、優勝を逃す一因となっていたので、今回も不安な気持ちで見守っていました。案の定、大事な予選1立目、まさかの8中！ 1立目を終えて最下位となり、目の前が真っ暗になりました。「もう終わった・・・」と顧問は諦めましたが、その弱気な気持ちを心の奥にしまい込み、生徒に「気持ちを切り替えろ。開き直れ。」と声を掛けました。2立目、1立目がうそのような13中というまずまず的中を出しました。しかし、決勝リーグ戦は無理だろうと思っていたのですが、他校の的中が伸びず、奇跡的な決勝リーグ戦への進出が決定しました。決して喜べる中ではありませんでしたが、最後まで諦めずに最後まで頑張ったことが、奇跡を起こしたのだと感じました。

### ■決勝リーグ戦

決勝リーグ戦の抽選で、またしても1番を引きました。いやな予感がするなか、初戦は優勝候補の東淀川高校です。優勝するにはどうしても勝たなければならない相手でしたが、初戦の緊張感のなか3本目まではいい勝負をしていましたが、最後の4本目で地力の差が出て、11中対13中で負けました。いきなり優勝の望みがなくなり落胆しましたが、「まだ近畿大会のチャンスが残っているぞ。」と気持ちを切り替えて次の試合に挑みました。次はこれまた強豪の浪速高校です。浪速高校はリーグ戦初戦の緊張感があり、本校は2試合目で緊張がほぐれた状態で試合に入れたのがよかったのか、15中という高的中で快勝しました。今まで浪速高校に勝ったことが無かったのでとてもうれしい勝利でした。この調子で波に乗っていけるかと思いきや、次の港高校との試合では、まさかの7中で自滅しての悔しい敗戦でした。いったいどうしたらこんなか的中が出るのか理解に苦しみます。顧問二人は役員としての仕事があり、部員になにも声を掛けることも出来ないまま、最後の汎愛高校との試合となりました。顧問の助けを受けること無く、自分たちだけで切れかかった気持ちをつなぎ、最後の力を振り絞って頑張った結果、先

ほどの的中がうそのような、16中という今日1番の的中での勝利でした。最終的に2勝2敗でリーグ戦を終えました。

今回のリーグ戦は、各校、力の差がなく、最後までどう転ぶか解らない状態でした。優勝した東淀川高校も最終戦で汎愛高校に敗れるなど、お互いにつぶし合う厳しい試合となりました。その結果、優勝は3勝1敗の東淀川高校、2位以下は2勝2敗で英真学園、汎愛高校、港高校の3校が並ぶ混戦となりました。順位はリーグ戦の総的中数(英真学園49中、汎愛47中、港45中)により決定し、本校が第2位となり、**悲願の団体での近畿大会出場を決めました。**



今回の大会は、結果として個人で2名と男子団体が近畿大会への出場を決めました。インターハイを逃した悔しさはありますが、念願の団体での近畿大会出場は本当にうれしく思います。各校のつぶし合いで、最終的には港高校に勝利していれば優勝の可能性もあったのですが、これはあくまでも結果論です。今の實力では、準優勝でも大健闘だと思います。今回の敗因は、予選、決勝リーグを通じて、的中が安定しなかったことに尽きます。でもこれは、日頃の練習通りです。調子が良ければ15、16中が出るのに、すぐに8中、9中という的中も平気で出していました。日頃から「練習での最高の中ではなく、最低的中が試合に出る。だから、練習の段階から10中を切ったらあかん。」と言い続けていましたが、ダメでした。今回の試合結果は、まさに練習通りの結果だったと思います。

これからは、近畿大会に向けてもう一度仕切り直しです。今までの自分たちの甘さを反省し、日頃の練習から1本1本を大切に、緊張感をもって弓と向き合ってもらいたいと思います。頑張ろう。

今回、たくさんの保護者の方に応援に来て頂きました。ありがとうございました。近畿大会でも頑張りますので、今後も応援宜しくお願いします。



## 第67回近畿高等学校弓道大会

日時・・・7月20日(日)・21日(月)  
会場・・・大阪城弓道場

■7月20日(日) 個人戦  
小野原・山田出場

■7月21日(月) 団体戦  
男子団体出場

応援、宜しくお願いします！

**「敵と戦う時間は短い。自分との戦いこそが明暗を分ける。」**